

令和 6 年 6 月 1 0 日

見附市議会議員 様

見附市議会議員 星野 雄哉

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第 6 1 条第 2 項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【 1 】 ふるさと納税業務について

答弁を求める者 市長

1 ふるさと納税は地方創生を応援するための制度であり、現在の居住地に関係なく自分が応援したい自治体を納税先として選ぶことができ、寄附額に応じて返礼品がもらえることも特徴です。また、集まった寄附金の使い道も多くの自治体のホームページで詳しく紹介されており、寄附金額は所得税や住民税などから控除を受けられるため、納税者にとって多くのメリットがある制度であります。この制度は平成 2 0 年から始まり、令和 6 年で 1 6 年目を迎えます。開始当初の平成 2 0 年度の全国合計寄附金額は約 8 1 億円、寄附件数約 5 万件でしたが平成 2 7 年度の制度改正以降、返礼品競争が始まりふるさと納税ブームが到来しました。その結果、令和 4 年度には約 9, 6 5 4 億円、寄附件数約 5, 1 8 4 万件となり、寄附額・件数ともに右肩上がりで増加しております。令和 5 年度の最終的な寄附金額は約 1 兆円、寄附件数は約 5, 5 0 0 万件に達しました。

この成長の理由として、実際に寄附した方が申請、返礼品の受け取り、税金還付の一連の流れを経験することで、疑問や不安が解消され、そのメリット・デメリットを理解して次年度も寄附を継続するリピーターとなることが挙げられます。言い換えれば、固定客が増えているということであり、その固定客に加えて新規寄附者が増えることで、全体の寄附金額が押し上げられていると考えられます。

見附市の寄附金額の推移は、制度開始の平成 2 0 年度の寄附金額 2 9 5 万 1, 0 0 0 円、件数 2 3 件から始まり、平成 2 6 年度までは 3 0 0 万円前後の寄附をいただいております。返礼品競争が始まった平成 2 7 年度は寄附

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウエ



金額5, 186万101円まで跳ね上がりましたが、その後2, 000万円台に下がる年もあり落ち込みを見せました。コロナ禍の令和2年度から5, 000万円台に戻ったものの、令和4年度でも5, 479万3100円と伸び悩んでいる現状です。令和5年度からはその状況を打破するべく、ふるさと納税業務を民間事業者へ委託し、併せて地域力創造アドバイザーや地域活性化起業人の知見を活かした取り組みにより、寄附金額の増加を図る取り組みを開始しました。寄附金額の目標を1億5, 000万円と設定した上で、新規事業者の開拓や返礼品の掘り起こしに積極的に取り組み、金額としては過去最高額を記録しましたが、最終的な寄附金額は前年度より微増にとどまる結果でありました。

この結果を受けて、市は昨年度業務委託していた事業者との契約を解除、新たに公募型プロポーザル方式で業務委託先を選定し、優先交渉権者として株式会社フューチャーリンクネットワークが選ばれました。プロポーザルには5社が参加し、審査結果は同社が1, 240点満点中1, 030点、次点の全国農業協同組合連合会が1, 016点、その他のA社、B社、C社の点数は公表されていません。

ふるさと納税業務委託における業務概要はポータルサイトの管理運営、寄附管理システムの管理運用、寄附金受領証明書等の発送、返礼品の発注および配送管理、コールセンター業務、返礼品の募集・開発、広報・PR、寄附金の募集に要する経費の管理など多岐にわたり、参加資格要件としては、他自治体での業務実績、法令遵守、暴力団排除、財政健全性、納税状況の確認が求められました。評価項目も詳細に設定され、業務遂行能力、ポータルサイト管理、寄附管理システム、発送管理、返礼品管理、コールセンター対応、広報・PR、経費管理、個人情報保護対策などが審査されました。

今回のプロポーザルは非公開で行われたため、選定理由の詳細は明らかではありません。見附市のふるさと納税業務委託事業者の選定プロセスと結果について詳細に理解し、寄附額増加に向けた取り組みを加速すべく以下質問いたします。

(1) 委託事業者の選定理由について

ア 公募型プロポーザルの評価結果を踏まえ、株式会社フューチャーリンクネットワークが優先交渉権者として選定された具体的な理由をお伺いします。

イ 14点差で次点となった全国農業協同組合連合会との評価差が生じた要因についてお伺いします。

ウ 業務委託先の他自治体での実績も評価項目に設定されています。株式会社フューチャーリンクネットワークの他自治体での業務実績とその成果について、具体的な事例とそれをどのように評価したのかをお伺いします。

(2) 評価基準の詳細について

ア 業務項目ごとの評価点数がどのようにして決定されたのか、各評価項目に基づく具体的な評価内容や配点基準をお伺いします。

イ 評価の際に使用された具体的な基準や尺度についてお伺いします。例えば、ポータルサイトの管理運営における具体的な評価ポイントなど、各項目の評価の根拠としたものがあれば教えてください。

(3) プロポーザルプロセスの検証について

ア 昨年3月6日に行われたふるさと納税事務全般の業務委託を含むSV事業者を選定するプロポーザルの際は公開プレゼンテーションを実施しましたが、今回は非公開で行われました。その理由をお伺いします。公開で行うことで得られるメリットとデメリットを比較したうえで、回答をお願いいたします。

イ 昨年度のプロセスに何か問題があったのか、検証結果も併せてお伺いします。

ウ 非公開で行うことによる公平性や競争性の確保についてどのように評価しているのか見解をお伺いします。

(4) 今後の目標と取り組み内容について

ア 今回の選定結果を踏まえて、見附市のふるさと納税業務の今後の目標額と具体的な方針についてお伺いします。特に、寄附額の増加に向けた新たな取り組みや改善点を詳しく教えてください。

イ 新たに選定されたフューチャーリンクネットワークに対して期待する具体的な成果や、目標達成のための評価基準をどのように設定するのかお伺いします。

ウ 見附市の返礼品の特色や魅力を最大限に活かした広報・PR 戦略について、フューチャーリンクネットワーク社にどのようなアプローチを期待しているのかをお伺いします。

エ 新しい返礼品の開発や既存返礼品のブラッシュアップに関して、どのような計画を有しているのか、また目標を設定しているのかをお伺いします。

オ 寄附金額の押し上げには固定客の獲得が必要不可欠であります。納税者へのアフターフォローなど、リピーター獲得に向けた取り組みをどのように計画しているのかお伺いします。

カ 令和 5 年 10 月の制度改正の影響についてお伺いします。この改正はふるさと納税の本来の目的を達成するためのものであり、経費率の計算に含める対象経費の拡大と地場産品基準の厳格化の 2 点が大きく変更されました。特に、経費の算出においては今まで対象とされていなかったワンストップ特例制度の事務や寄附金受領証の発行にかかる費用を含めなければならなくなりました。このことで経費率が 5 割を超えてしまう自治体はそのままだと制度の対象外とされてしまうため、同じ返礼品でも寄附金額が上がったり、同じ寄附金額でも返礼品のグレードが下がったりするなどといった経費率の分母に当たる寄附金額の値上げに踏み切るケースが増えております。制度改正による当市のふるさと納税への影響の有無とどのように対応したのかをお伺いします。

以上